

「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】美唄市立峰延小学校
【活動の名称】 ピア・サポート授業 ～『コミュニケーションのための自己理解』～
【活用した資源】各種研修会資料
【対象学年と活動の時期】3～6年生 4月（1回目）

（項目ア—観点①居場所づくり）

【活動の概要】
 ・ピア・サポートプログラムを通じて、児童の対人関係スキルを磨き、仲間づくりを促進する。
 ※ピア・サポートプログラムとは、子どもたちが互いに思いやり・助け合い・支え合う人間関係を育むために行う学習活動で、思いやりのある学校風土づくりへとつなげる。

【ねらい】
 ・よりよいコミュニケーションを図るため、自分の対人関係の特徴を知る。
 ・自分のエゴグラムを周りと交流することにより、互いに認め合う関係を築く。

【活動の流れ】〔エゴグラムの作成〕
 ①簡単なO×クイズで、ウォーミングアップをする。
 ②内面にある自分の人格を知るために、ワークシートでチェックし、エゴグラムを作成する。
 ③できたグラフの形から、自分の特徴を知る。
 ④自分の特徴をどんな場面でどのように生かせるか考え、ワークシートに記入する。
 ⑤理想的なグラフの形を知り、その理想に近づくにはどうすればよいか考え、ワークシートに記入する。
 ⑥周りの人とエゴグラムを交流し、相手のグラフや考えに対して感想を伝え合う。



〈交流の様子〉



エゴグラムチェックリスト

年 番 氏 名 _____

以下に、あなた自身についての質問が50項目あります。○、×、△のいずれかで答えください。
 なるべし○か×で答えてね。迷う質問もありますが、△はできるだけ避けて。

CP				FC			
No.	質	問	回答	No.	質	問	回答
1	まちがったことに対して、「まちがいで」と言います。			1	してみたいことがいっぱいあります。		
2	時間を守らないことはきらいです。			2	気分転換かんがえがよかったです。		
3	「きそく」や「ルール」を守ります。			3	よくわらいます。		
4	人や自分をせめます。			4	好奇心が強いほうです。		
5	「…すべきである。」「…ねばならない。」と思います。			5	物事を明るく考えます。		
6	決めたことを最後まで守らないと気がすみません。			6	茶目つけがあります。		
7	かりたお金を明日までに返さないと気がなりません。			7	新しいことが好きです。		
8	やくそくをやぶることはありません。			8	将来の夢や楽しいことを想像するのが好きです。		
9	不正なことはぜったいにゆるせません。			9	趣味があります。		
10	無責任な人を見るとゆるせません。			10	「すごい」「わあー」「へえー」などのことばを使います。		
CP計				FC計			

NP				AC			
No.	質	問	回答	No.	質	問	回答
1	思いやりがあります。			1	人の気持が気になって合わせてしまいます。		
2	人をほめるのがじょうずです。			2	人前に入るより、後ろに引っ込んでしまいます。		
3	人の話をよく聞いてあげます。			3	よく後かかります。		
4	人の気持ちを考えます。			4	相手の顔色をうかがいます。		
5	ちよつとしたおくり物でもしたいほうです。			5	不愉快なことがあっても口に出さず、おさえてしまいます。		
6	人の失敗は大きく見られるほうです。			6	人によく思われようとするまいです。		
7	世話好きです。			7	まわりの考えに合わせ協力することができます。		
8	自分からあたたくあいさつします。			8	遠りよがらです。		
9	困っている人を見ると何とかしてあげます。			9	周囲の人の意見に振りまわされます。		
10	子どもや目下の人をかわいがります。			10	自分が悪くもないのに、すぐあやまります。		
NP計				AC計			

A			
No.	質	問	回答
1	何でも、何が中心問題か考え直します。		
2	物事を分けて、事実にもとづいて考えます。		
3	「なぜ」そんなの理由を検討します。		
4	感情を表に出さず、理論的に考えます。		
5	新聞の社会面などには関心があります。		
6	結果を予測して、準備します。		
7	物事を冷静に判断します。		
8	わからない時はわかるまで追求します。		
9	仕事や生活の予定を記録します。		
10	他の人ならどうするだろうかと考えます。		
A計			

20					
18					
16					
14					
12					
10					
8					
6					
4					
2					
0					
	CP	NP	A	FC	AC

〈質問を得点化し、右下に折れ線グラフのように書き込む。〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】
 ・自分の役割を自覚して積極的に行動するようになった。
 ・互いの違いを認めたり、互いによいところをほめ合ったりする言動が増えた。

- 児童が自己理解を深めることにより、友達とよりよく関わるためにはどのような自分になればよいかを考えることにつながっています。
- 互いの違いを認めたり、互いによいところを褒め合ったりする活動をおして、思いやりのある温かい学級風土を醸成することができています。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】江別市立野幌若葉小学校			
【活動の名称】ふれあい集会			
【活用した資源】児童会活動			
【対象学年と活動の時期】全学年 6月・11月			

（項目ア—観点②絆づくり）

【活動の概要】
 ・児童会生活委員会が中心となり、異学年が交流する活動を通して、「いじめ」について考える。

【ねらい】
 ・みんなが楽しく学校生活を送るために、気を付けたらよいことに気付き、実行しようとする態度を育成する。
 ・いじめをしない、許さない態度を育成し、児童相互の望ましい人間関係を築く。

【活動の流れ】
 <事前>
 ①生活委員会が中心となり、集会の計画を立てる。
 ②委員会だよりや昼の放送で、集会のねらいや学級での取組などについて周知する。
 （学級での取組）・学級でいじめ防止のために取り組んでいることについて発表する。
 ・いじめ防止標語をつくる。
 <当日>
 ①（前期）委員会の児童による読み聞かせを行い、感想を書き交流する。
 （後期）委員会の児童が、日常生活の中でありそうな「いじめにつながりかねない行動」を劇にして演じる。全校児童は、「なぜいけないのか」「どう行動すればいいのか」を様々な立場に立って考える。
 ②「全校のいじめ防止の合い言葉」や「いじめ標語代表作品（学年1つ）」を聞き、意識を高める。
 ③全校遊びを通して、お互いをよく知ることで仲よくなる。
 ④全校合唱を通して、同じ目的に向かって心を一つにする。

当日のプログラム（前期）

- ①生活副委員長の話
- ②読み聞かせ「わたしの妹」
- ③感想カードの記述、発表
- ④生活委員長の話
- ⑤今年のスローガン発表
- ⑥ゲーム「ジャンケン列車」
- ⑦全校合唱「世界中の子どもたちが」
- ⑧校長先生の話

当日のプログラム（後期）

- ①生活委員長の話
- ②生活委員会から
 - ・「いじめ防止標語」～各学年の発表
 - ・「いじめに関わる発表」
- ③ゲーム「コンビニへ行こう」
- ④校長先生の話
- ⑤全校合唱「世界中の子どもたちが」
- ⑥生活副委員長のあいさつ

標語代表作品（6年生）
 いつまでも消さずにいたい心の灯



スローガン
 「いじめをしない! させない!ゆるさない!」



生活委員会の劇
 「一緒に遊ぼう」と言われた時、どうすればよかったのか






学年代表による
 「いじめ防止標語」の発表

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】
 ・標語を作成するとともに、交流することや具体的な事例を挙げて考えることで、いじめはよくないことだという意識がより一層育まれた。

- 事前にねらいを明確にしたり、児童が主体的に活動を運営したりすることにより、児童一人一人が目的意識や必要感を高め、主体的に集会に参加することができています。
- いじめの未然防止を意識した劇やゲーム、合唱などの活動を関連付けることにより、児童の興味・関心を高め、いじめの未然防止についての理解が一層深まっています。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】小樽市立潮見台小学校				
【活動の名称】 「いのちの学習」の推進				
【活用した資源】学級担任と養護教諭との連携				
【対象学年と活動の時期】全学年 6月～12月				
【活動の概要】 ・学級担任と養護教諭が連携し、心と体を育み、自他を大切に「いのちの学習」を実施する。				
【ねらい】 ・自分や友だちの成長について学ぶことを通して、自分一人のものではない「いのち」の大切さに気付かせる。 ・自分の健康について関心を持ち、健康に生活する上での課題を見付け解決できるようにする。 ・自分と異なる意見を受け入れ、自分の考えを持ち、互いに尊重し合いながら学び合う態度を育てる。				
【活動の流れ】 ① 学級担任と養護教諭が連携し、児童の発達の段階に応じた学習のめあてを設定する。				
学年	学習名	めあて		
1年	きれいなからだ	体をきれいにすることの大切を知り、清潔にする態度を育てる。		
2年	おへそのひみつ	自分がどのように生まれてきたか、かけがえのない命、自分の存在に気づき、自己肯定感をもちたせる。		
3年	私の誕生	生命の連続性や一人一人がかけがえのない存在であることに気付かせる。		
4年	大人への体と心の変化	体の発育、発達の仕方には個人差や男女差があることを理解させる。		
5年	男女の尊重	男女がお互いに相手の立場を理解して、仲よく助け合っていこうとする態度を育てる。		
6年	好きになるということ	異性に関心をもったり、異性と親しくしたいと思ったりする一方で、人にはそれぞれの感じ方や考え方がるので、異性をよく理解することや、尊重することの大切さに気付かせる。		
② 養護教諭が年間の活動計画を立案し、担任と授業の準備を行う。				
③ 全学級で、担任と養護教諭のチームティーチングによる授業を実施する。				
				
〈1年生 手の洗い方〉		〈2年生 みんなが生まれるまで〉		〈3年生 妊婦体験ジャケット着用〉
④ 児童アンケートやいじめ未然防止アンケートなどから、学習の評価を行う。				
(児童の感想) ・自分が生まれたときに、お母さんたちがとても喜んでくれたことがわかって、うれしかった。 2年 ・妊婦体験ジャケットはとても重たくて、お母さんにありがとうを言いたい。 3年 ・男女の違いで、心の違いはあると思った。けんかはしない方がよいし、いじめもよくないと思った。友だちと助け合っていくことが大切だと思った。 5年		(担任の評価) ・出産までの母親の気持ちや大変さに気付くことで、児童に自分や友だちを大切にしようとする心情が育った。 2年 担任 ・母親のおなかの中で、胎児がどのように成長し、どのように生まれてくるのかなどを知り、児童は、自分の命は自分だけのものではないことを学んだ。 3年 担任 ・児童は、男女の心や体の発達の違いを理解し、男女がお互いを尊重することの大切さを学んだ。 5年 担任		
⑤ 評価の結果を受け、次年度の「いのちの学習」のめあてや活動計画を見直す。				
【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】 ・自分の体や健康の大切さに気付くとともに、友だちの体や心に目を向け、自分や周りの人を大切にしようとする児童が増えた。				

- 生命の大切さについて学習することを通して、児童同士が互いを大切に思う心など、いじめの未然防止につなげようとする気持ちを育むことができています。
- 児童の発達の段階を踏まえるよう学習内容を工夫したことにより、児童の理解を一層深めることにつながっています。

